



平成二十四年の新春おめでとう
ございます。
檀信徒の皆様には、よきお正月
を迎えたこととお慶び申し上
げます。

融通念佛宗管長 倍巖良舜



昨年は三月十一日の東日本大震災、
そして大津波、さらに福島の原発
事故、加えて九月の台風十二号、
千年に一度といわれる大災害の年
となりました。私は七月六日に布
上げます。

平成二十四年の新春おめでとう
ございます。
檀信徒の皆様には、よきお正月
を迎えたこととお慶び申し上
げます。

今年は何としても平穏な年であ
ることを切に願いたいと思います。
また一方、今年は、我宗におき
まして平成二十七年の「開宗九百
年記念 大通上人三百回御遠忌大
法要」にむけての本
格的に始動しなけれ
ばならない年でもあ
ります。

(一一一七) 年元祖
聖應大師良忍上人は
阿弥陀仏の直説とし
て感得された「一人
一切人 一人
一切 一切行
一行 一切行
一行 一切
融通念佛
功德円満」の偈に
基づき、自他の念佛
が融通して大きな功
徳があることを説か
れました。今までの
佛教は貴族的であつ
たり、庶民の世界か
ら離れた山の上にあ
つたりしましたが、
良忍上人がうち立て
られた融通念佛は始



皆様の一層の御協力、御支援を
お願い申し上げます。

平成27年5月1日～5月7日
開宗900年記念 大通上人300回御遠忌 大法要

初詣
大晦日除夜鐘つき法要
年末年始は本山へ

教師会会長田中瑞修師以下布教師
十二名の方々とともに被災地を実
際に拝察させて頂きました。テレ
ビには映っていない被災者の仮埋
葬地ではお念佛を唱えて回り、御
冥福をお祈り申し上げました。ま
た松島の瑞巖寺でも慰靈法要と復
興祈願法要を勤めることができます。

関西でも九月二日台風十二号が
紀伊半島を直撃し奈良県南部、北
東部に土砂崩れが多発し、せきと
め湖ができ、道路が寸断されたり
しました。東日本の復興とともに
こちらの方の復興も求められています。

今年は何としても平穏な年であ
ることを切に願いたいと思います。
また一方、今年は、我宗におき
まして平成二十七年の「開宗九百
年記念 大通上人三百回御遠忌大
法要」にむけての本
格的に始動しなけれ
ばならない年でもあ
ります。

時代が下つて江戸時代の元禄の頃、
融通念佛宗を再興されたのが大通
上人で平成二十七年が三百回忌に
当たります。上人は五回にわたり
大坂江戸を往復され、幕府に本宗
が整った一宗であることを認める
よう説得、再興された方あります。
「開宗九年記念 大通上人三百
回御遠忌大法要」に向け、融通
の輪を広げ温かい心満ちあふれる
樂土建設をめざして大きく一步を
ふみだしましょう。

時代が下つて江戸時代の元禄の頃、
融通念佛宗を再興されたのが大通
上人で平成二十七年が三百回忌に
当たります。上人は五回にわたり
大坂江戸を往復され、幕府に本宗
が整った一宗であることを認める
よう説得、再興された方あります。
「開宗九年記念 大通上人三百
回御遠忌大法要」に向け、融通
の輪を広げ温かい心満ちあふれる
樂土建設をめざして大きく一步を
ふみだしましょう。

時代が下つて江戸時代の元禄の頃、
融通念佛宗を再興されたのが大通
上人で平成二十七年が三百回忌に
当たります。上人は五回にわたり
大坂江戸を往復され、幕府に本宗
が整った一宗であることを認める
よう説得、再興された方あります。
「開宗九年記念 大通上人三百
回御遠忌大法要」に向け、融通
の輪を広げ温かい心満ちあふれる
樂土建設をめざして大きく一步を
ふみだしましょう。

時代が下つて江戸時代の元禄の頃、
融通念佛宗を再興されたのが大通
上人で平成二十七年が三百回忌に
当たります。上人は五回にわたり
大坂江戸を往復され、幕府に本宗
が整った一宗であることを認める
よう説得、再興された方あります。
「開宗九年記念 大通上人三百
回御遠忌大法要」に向け、融通
の輪を広げ温かい心満ちあふれる
樂土建設をめざして大きく一步を
ふみだしましょう。

時代が下つて江戸時代の元禄の頃、
融通念佛宗を再興されたのが大通
上人で平成二十七年が三百回忌に
当たります。上人は五回にわたり
大坂江戸を往復され、幕府に本宗
が整った一宗であることを認める
よう説得、再興された方あります。
「開宗九年記念 大通上人三百
回御遠忌大法要」に向け、融通
の輪を広げ温かい心満ちあふれる
樂土建設をめざして大きく一步を
ふみだしましょう。

時代が下つて江戸時代の元禄の頃、
融通念佛宗を再興されたのが大通
上人で平成二十七年が三百回忌に
当たります。上人は五回にわたり
大坂江戸を往復され、幕府に本宗
が整った一宗であることを認める
よう説得、再興された方あります。
「開宗九年記念 大通上人三百
回御遠忌大法要」に向け、融通
の輪を広げ温かい心満ちあふれる
樂土建設をめざして大きく一步を
ふみだしましょう。

時代が下つて江戸時代の元禄の頃、
融通念佛宗を再興されたのが大通
上人で平成二十七年が三百回忌に
当たります。上人は五回にわたり
大坂江戸を往復され、幕府に本宗
が整った一宗であることを認める
よう説得、再興された方あります。
「開宗九年記念 大通上人三百
回御遠忌大法要」に向け、融通
の輪を広げ温かい心満ちあふれる
樂土建設をめざして大きく一步を
ふみだしましょう。

時代が下つて江戸時代の元禄の頃、
融通念佛宗を再興されたのが大通
上人で平成二十七年が三百回忌に
当たります。上人は五回にわたり
大坂江戸を往復され、幕府に本宗
が整った一宗であることを認める
よう説得、再興された方あります。
「開宗九年記念 大通上人三百
回御遠忌大法要」に向け、融通
の輪を広げ温かい心満ちあふれる
樂土建設をめざして大きく一步を
ふみだしましょう。

時代が下つて江戸時代の元禄の頃、
融通念佛宗を再興されたのが大通
上人で平成二十七年が三百回忌に
当たります。上人は五回にわたり
大坂江戸を往復され、幕府に本宗
が整った一宗であることを認める
よう説得、再興された方あります。
「開宗九年記念 大通上人三百
回御遠忌大法要」に向け、融通
の輪を広げ温かい心満ちあふれる
樂土建設をめざして大きく一步を
ふみだしましょう。

時代が下つて江戸時代の元禄の頃、
融通念佛宗を再興されたのが大通
上人で平成二十七年が三百回忌に
当たります。上人は五回にわたり
大坂江戸を往復され、幕府に本宗
が整った一宗であることを認める
よう説得、再興された方あります。
「開宗九年記念 大通上人三百
回御遠忌大法要」に向け、融通
の輪を広げ温かい心満ちあふれる
樂土建設をめざして大きく一步を
ふみだしましょう。

時代が下つて江戸時代の元禄の頃、
融通念佛宗を再興されたのが大通
上人で平成二十七年が三百回忌に
当たります。上人は五回にわたり
大坂江戸を往復され、幕府に本宗
が整った一宗であることを認める
よう説得、再興された方あります。
「開宗九年記念 大通上人三百
回御遠忌大法要」に向け、融通
の輪を広げ温かい心満ちあふれる
樂土建設をめざして大きく一步を
ふみだしましょう。

時代が下つて江戸時代の元禄の頃、
融通念佛宗を再興されたのが大通
上人で平成二十七年が三百回忌に
当たります。上人は五回にわたり
大坂江戸を往復され、幕府に本宗
が整った一宗であることを認める
よう説得、再興された方あります。
「開宗九年記念 大通上人三百
回御遠忌大法要」に向け、融通
の輪を広げ温かい心満ちあふれる
樂土建設をめざして大きく一步を
ふみだしましょう。

時代が下つて江戸時代の元禄の頃、
融通念佛宗を再興されたのが大通
上人で平成二十七年が三百回忌に
当たります。上人は五回にわたり
大坂江戸を往復され、幕府に本宗
が整った一宗であることを認める
よう説得、再興された方あります。
「開宗九年記念 大通上人三百
回御遠忌大法要」に向け、融通
の輪を広げ温かい心満ちあふれる
樂土建設をめざして大きく一步を
ふみだしましょう。

時代が下つて江戸時代の元禄の頃、
融通念佛宗を再興されたのが大通
上人で平成二十七年が三百回忌に
当たります。上人は五回にわたり
大坂江戸を往復され、幕府に本宗
が整った一宗であることを認める
よう説得、再興された方あります。
「開宗九年記念 大通上人三百
回御遠忌大法要」に向け、融通
の輪を広げ温かい心満ちあふれる
樂土建設をめざして大きく一步を
ふみだしましょう。

時代が下つて江戸時代の元禄の頃、
融通念佛宗を再興されたのが大通
上人で平成二十七年が三百回忌に
当たります。上人は五回にわたり
大坂江戸を往復され、幕府に本宗
が整った一宗であることを認める
よう説得、再興された方あります。
「開宗九年記念 大通上人三百
回御遠忌大法要」に向け、融通
の輪を広げ温かい心満ちあふれる
樂土建設をめざして大きく一步を
ふみだしましょう。

節分の行事

融通念佛宗宗務総長 吉村障英



正月行事が終り、松飾りもはずされる頃になると、寒さも一段と加わります。

やがて節分が訪れます。

節分とは季節の分かれ目にあたり、立春、立夏、立秋、立冬の前日をいうのですが、いつ頃からか、節分といえば立春の頃のみを指すようになりました。通常は二月三日が節分、翌日が立春となります。

寒さきびしい中にも、若葉が芽を出し始める立春に、人びとは他の季節の分かれ目以上の新鮮な生気を感じるのです。だから特にこの日を迎える喜びが大きかつたものと想像します。

豆まき

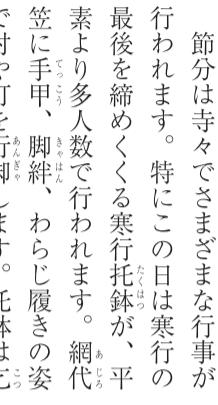
古くは「追儺」または「鬼やら



托鉢



護摩供



托鉢

高慢心、虚偽（うそ、いつわり）の心など、鬼は沢山いるのです。年越しの夜、それらの鬼を退散させるために豆をまき、すがすがしい心で新しい年を迎えるのです。

年越しは大晦日の夜のことですが、立春の前日の節分の夜を指す場合もあります。これは前述の大晦日の行事であつた鬼やらいの儀式をこの日に行うようになったことと関係がありそうです。

も勇気を養い、屈辱を加えた人を怨むのではなく、逆に修鍊を与えてくれたことに感謝して拝んでゆく。これは至難の業ですが、ここにこそ忍辱（屈辱に耐え忍ぶ強い心）と慈悲（大いなる慈しみと哀れみ）の托鉢本来の修行があるのです。

信者の家や決められたコースを回るのは本来の托鉢行から離れていくのです。

節分にはどこの家でも「福は内、鬼は外」のかけ声も勇ましく、豆まさぎが行われます。そこには幸せをもたらす福の神は長く家に留まつてもらい、災いや病気をもたらす鬼は退散してほしいと願う素朴な祈りがこめられています。

古くは「追儺」または「鬼やら

い」と呼ばれるもので、大晦日の夜に行われたということです。特に朝廷の年中行事として大切にされてきました。鬼は外から侵入していく場合もありますが、仏教では鬼は心の産物ととらえ、誰の心にも巣食っている貪欲という底なしの欲望、怒り腹立ちの心、もの

の道に迷う暗い心などをいい、これを三毒の鬼といつても最も重視します。その他、妬み心、怨み心、なればとの思いに溢れているのです。

王など本尊の加被力（衆生に不可思議な力を加え利益を与えること）と、行者の三密加持（手に印を結び、口に真言を唱え、意に本尊を思念する実践法）と、信者の信力（が）一つに融合して靈妙な効驗が得られるものとして、密教寺院を中心に行ってきたものです。本宗においても宗祖良忍上人が密教を相続しているところから、これを修法する寺院も多く見られます。

次に天下泰平と国家安穏を祈り、あわせて天地風雨の恵みと五穀豊穣を祈念します。

次に世の人びとすべての家内安全、親族和合を祈ります。

この法会に縁を結んだ人びとの所願成就と、この世あの世の二世の

く淡々とした世界があるのみです。しかし托鉢はどんな時でもこんな美しいものではありません。「うるさい！」と怒鳴られることもあるし、足許に錢を投げられることもあります。屈辱でからだが震えることもあります。それを耐え忍ぶ勇気を養い、屈辱を加えた人を怨むのではなく、逆に修鍊を与えてくれたことに感謝して拝んでゆく。

続いて右に掲げた祈願を成就するための趣旨を読みあげ、さらにこの儀式は、わが国では大宝三

（七〇三）年、大般若經を読誦して國家の安泰と幸福を祈念したのが最初と伝えています。大般若經

六百卷という大部の經卷を、何人かの僧侶が手分けして、經卷の卷数名と翻訳者玄奘三藏の御名のみ

を初めて読み上げ、般若の真髓を要約した短い經文を誦しながら、

一斉に勢いよくパラパラと繰り広げ、

これによつて一巻を読誦したことになります。これを転読といい、一巻が終わるごとに、一切の魔障の降伏と祈願の成就を祈つて、經卷を経機で叩きます。この音によつて魔障を退散させる意味が込められています。豆まさぎによつて鬼を退散させるのと相通じます。

さて大般若会すなわち大般若転

読法要は、「大般若法則」という軌範に基づいて行われます。先ず守護神の十六善神の画像を壇上に安置し、洗い米、小豆、水、酒、飯とその他随意の供物を供えます。

そしてこの場に般若転読の功德を証明するために梵天、帝釈をはじめ、日本国内の八百万神、更には施主の星供の神、山野の神々等、一切を招き入れます。

次にこの法会が何を祈願するかを述べます。まず第一に天皇皇

后両陛下、皇太子殿下のご身体の

安穏と皇室の繁栄を祈ります。

ぐ者は福寿増長す」と記されています。

大般若六百卷の趣旨は、帰するところ「空」に尽くるわけですが、これを簡潔に説明したものが、転読の際、読みあげる短い經文です。

これは紀元二世紀中葉から三世紀中葉にかけて、南インドに出た大

学者、龍樹（りゅうじゅ）という人が大般若經の要点を短くまとめたものです。そ

の意味するところは、「世の中のあらゆる現象も、人も動物も植物もすべては原因があつて生まれ、そこに何かの縁とという条件が加わって成り立つてゐるものばかりであります。だから永遠に存続するものは何もない。（因と縁が解ければなくなるものであるから執われるべきものもない。）また過去、

現在、未来という区別もないのであります。詮ずるところあらゆるもの空なる存在である。すなわち固定した自体というものはなく、因縁和合の仮のすがたである。だからこれを得たとか、得なかつたといふこともない、無所得なのである。

これを般若波羅蜜（りやくばらみつ）といふ。どうほどの意味あるいは支え合いの関係でないものは何もないということです。そうであるならば、融通のこころもまた同じです。

大般若転読法要は、私たちの迷い心を洗い清め、清らかな心にしていくことによつて、神仏の心に通り合い、そこに様々な功德とご利益が得られるものということができるでしょう。

転読する僧侶の勇壮な声が堂内に響きわたり、寒さの中でもその額には汗が滲んでいます。このさ



大般若転読

節分は寺々でさまざまな行事が行われます。特にこの日は寒行の最後を締めくくる寒行托鉢が、平素より多人数で行われます。網代笠に手甲、脚絆、わらじ履きの姿で村や町を行脚します。托鉢は乞食行ともいわれ、食物を乞うことが本来の意味合いであります。布施する者もさる者も施物も、無所得とせられます。これは仏・菩薩・明

第七教区の寺々

編集委員 大東良清

向輪山 大念寺

桜井市東田一〇四

向輪山 大念寺と号すこの寺は、本堂は寄棟造り二重瓦葺き二間向拝付にて、天保十三（一八四二）年当山再興第十四世、開立上人代建築。寺の起源等は不明であるが、開山円誉良伝和尚は明暦四（一六五八）年に遷化されているので、江戸時代初期に開かれた寺院ではないかと考えられる。本尊は阿弥陀三尊來迎像で、室町時代作。阿弥陀十一尊來迎図は、延宝八（一六八〇）年の銘あり。山内には嘉永四（一八五二）年一月十四日遷



内陣天井画

上人の骨壺が納められており、この坐像



境内

自体が上人のお墓になっている。特別な行事では、過去に大和七カ大寺で行じられていたといわれのある、「一挺切お別れ供養」という法要が現在はこの寺のみで営まれている。これは新亡の仏を満

陰後、初めて迎える彼岸法要の前日に寺にお招きして、お別れ法要を勤めて、中陰の最後の儀式とするというものである。

十二月上旬 十夜会・三千佛名会、十二月三十一日 除夜法要（二十三時四十五分より〇時三十分まで鐘つき）、毎月第一土曜日（一月、八月の午前十時～十二時を除く）には写経会をとり行っている。

六月七日付『大念佛寺末寺帳』に初めてその記録が出てくる。「・・・六月七日付『大念佛寺末寺帳』に

十市郡竹田村 融宣寺 代々看坊、當看坊恵信、三年以前入院、元淨土宗、大念佛宗帰依。・・・此従往古在之。開基年曆不分明。」とあります。今から三百年以上前に既に此處に融宣寺があつた事は明らかである。尚、境内には、文明六（一四七四）年付「重海大德」と彫られた五輪塔の角塔部分だけが残つておらず、六斎念佛の碑や、寛永年間の石碑が出土して、古くからこそに寺があつた事が窺われる。

さて現在、本堂では先住職亮英上人監修のもと、写経道場が開放されており、今年三月には、九十二才の御婦人を筆頭に、九名の方々が『浄土三部經』を複数巻写経し奉納所に納められている。

★ 納骨のご案内
本堂に於いて、午前九時三十分より午後四時まで年中無休で宗派は問わず納骨を受け付けています。
午後二時～四時三十分
大念佛寺佛教講座
毎月第二水曜日
午後二時～四時三十分
中祖法明上人御忌法要
七月二十日（金）
鳥羽忌

◎ 一月三日（金）午前八時三十分
寒行

本山僧侶が平野の町を鉢を打ち鳴らしながら托鉢します。

◎ 一月十六日（月）午後一時
融通念仏会

國家安泰・五穀豊穣・万民豊樂を祈願して法要が修されます。

◎ 一月十六日（月）午前十一時
修正会

融通念仏会

◎ 五月十六日（水）午前十一時
融通念仏会

五月十六日（水）午後一時
百万遍会

◎ 五月二十九日（火）午後三時頃
河内御回在御帰院

◎ 五月二十二日（火）午後一時
東照大權現忌

◎ 七月七日（土）午後一時
中祖法明上人御忌法要

◎ 七月二十日（金）午後一時
鳥羽忌

◎ 毎月第二水曜日
午後二時～四時三十分
大念佛寺佛教講座

◎ 每月二十六日 午後一時三十分
定例布教

◎ 一月三日（金）午前八時三十分
寒行

本山僧侶が平野の町を鉢を打ち鳴らしながら托鉢します。

◎ 一月十六日（月）午後一時
融通念仏会

国家安泰・五穀豊穣・万民豊樂を祈

願して法要が修されます。

◎ 一月十六日（月）午前十一時
修正会

融通念仏会

◎ 五月十六日（水）午前十一時
融通念仏会

五月十六日（水）午後一時
百万遍会

◎ 五月二十九日（火）午後三時頃
河内御回在御帰院

◎ 五月二十二日（火）午後一時
東照大權現忌

◎ 七月七日（土）午後一時
中祖法明上人御忌法要

◎ 七月二十日（金）午後一時
鳥羽忌

◎ 每月第二水曜日
午後二時～四時三十分
大念佛寺佛教講座

◎ 每月二十六日 午後一時三十分
定例布教

◎ 一月三日（金）午前八時三十分
寒行

本山僧侶が平野の町を鉢を打ち鳴らしながら托鉢します。

◎ 一月十六日（月）午後一時
融通念仏会

国家安泰・五穀豊穣・万民豊樂を祈

願して法要が修されます。

◎ 一月十六日（月）午前十一時
修正会

融通念仏会

◎ 五月十六日（水）午前十一時
融通念仏会

五月十六日（水）午後一時
百万遍会

◎ 五月二十九日（火）午後三時頃
河内御回在御帰院

◎ 五月二十二日（火）午後一時
東照大權現忌

◎ 七月七日（土）午後一時
中祖法明上人御忌法要

◎ 七月二十日（金）午後一時
鳥羽忌

◎ 每月第二水曜日
午後二時～四時三十分
大念佛寺佛教講座

◎ 每月二十六日 午後一時三十分
定例布教

◎ 一月三日（金）午前八時三十分
寒行

本山僧侶が平野の町を鉢を打ち鳴らしながら托鉢します。

◎ 一月十六日（月）午後一時
融通念仏会

国家安泰・五穀豊穣・万民豊樂を祈

願して法要が修されます。

◎ 一月十六日（月）午前十一時
修正会

融通念仏会

◎ 五月十六日（水）午前十一時
融通念仏会

五月十六日（水）午後一時
百万遍会

◎ 五月二十九日（火）午後三時頃
河内御回在御帰院

◎ 五月二十二日（火）午後一時
東照大權現忌

◎ 七月七日（土）午後一時
中祖法明上人御忌法要

◎ 七月二十日（金）午後一時
鳥羽忌

◎ 每月第二水曜日
午後二時～四時三十分
大念佛寺佛教講座

◎ 每月二十六日 午後一時三十分
定例布教

◎ 一月三日（金）午前八時三十分
寒行

本山僧侶が平野の町を鉢を打ち鳴らしながら托鉢します。

◎ 一月十六日（月）午後一時
融通念仏会

国家安泰・五穀豊穣・万民豊樂を祈

願して法要が修されます。

◎ 一月十六日（月）午前十一時
修正会

融通念仏会

◎ 五月十六日（水）午前十一時
融通念仏会

五月十六日（水）午後一時
百万遍会

◎ 五月二十九日（火）午後三時頃
河内御回在御帰院

◎ 五月二十二日（火）午後一時
東照大權現忌

◎ 七月七日（土）午後一時
中祖法明上人御忌法要

◎ 七月二十日（金）午後一時
鳥羽忌

◎ 每月第二水曜日
午後二時～四時三十分
大念佛寺佛教講座

◎ 每月二十六日 午後一時三十分
定例布教

◎ 一月三日（金）午前八時三十分
寒行

本山僧侶が平野の町を鉢を打ち鳴らしながら托鉢します。

◎ 一月十六日（月）午後一時
融通念仏会

国家安泰・五穀豊穣・万民豊樂を祈

願して法要が修されます。

◎ 一月十六日（月）午前十一時
修正会

融通念仏会

◎ 五月十六日（水）午前十一時
融通念仏会

五月十六日（水）午後一時
百万遍会

◎ 五月二十九日（火）午後三時頃
河内御回在御帰院

◎ 五月二十二日（火）午後一時
東照大權現忌

◎ 七月七日（土）午後一時
中祖法明上人御忌法要

◎ 七月二十日（金）午後一時
鳥羽忌

◎ 每月第二水曜日
午後二時～四時三十分
大念佛寺佛教講座

◎ 每月二十六日 午後一時三十分
定例布教

◎ 一月三日（金）午前八時三十分
寒行

本山僧侶が平野の町を鉢を打ち鳴らしながら托鉢します。

◎ 一月十六日（月）午後一時
融通念仏会

国家安泰・五穀豊穣・万民豊樂を祈

願して法要が修されます。

◎ 一月十六日（月）午前十一時
修正会

融通念仏会

◎ 五月十六日（水）午前十一時
融通念仏会

五月十六日（水）午後一時
百万遍会

◎ 五月二十九日（火）午後三時頃
河内御回在御帰院

◎ 五月二十二日（火）午後一時
東照大權現忌

◎ 七月七日（土）午後一時
中祖法明上人御忌法要

◎ 七月二十日（金）午後一時
鳥羽忌

◎ 每月第二水曜日
午後二時～四時三十分
大念佛寺佛教講座

◎ 每月二十六日 午後一時三十分
定例布教

◎ 一月三日（金）午前八時三十分
寒行

本山僧侶が平野の町を鉢を打ち鳴らしながら托鉢します。

◎ 一月十六日（月）午後一時
融通念仏会

国家安泰・五穀豊穣・万民豊樂を祈

願して法要が修されます。

◎ 一月十六日（月）午前十一時
修正会

融通念仏会

◎ 五月十六日（水）午前十一時
融通念仏会

五月十六日（水）午後一時
百万遍会

◎ 五月二十九日（火）午後三時頃
河内御回在御帰院

◎ 五月二十二日（火）午後一時
東照大權現忌

◎ 七月七日（土）午後一時
中祖法明上人御忌法要

◎ 七月二十日（金）午後一時
鳥羽忌

◎ 每月第二水曜日
午後二時～四時三十分
大念佛寺佛教講座

◎ 每月二十六日 午後一時三十分
定例布教

◎ 一月三日（金）午前八時三十分
寒行

本山僧侶が平野の町を鉢を打ち鳴らしながら托鉢します。

◎ 一月十六日（月）午後一時
融通念仏会